

# やっときゃよかった、やってよかった防災式



もし明日、大きな災害に襲われると判ったなら「あなたならどうする？」をテーマに考えていきます。

## ◆シリーズ「あなたならどうする？」地震編パート4

大きな地震が明日襲ってくると判ったあなたはどのような行動をとるのでしょうか？

地震の後に火災が発生した場合、多くは「**火災警報器が鳴るから安心と思うグループ**」と「**火災警報器が鳴ったら怖いと思うグループ**」の大きく2つのグループに分類されます。

**火災警報器が鳴るから安心と思うグループ**は、「火災警報が鳴る＝火災発生」という図式が描けていない場合が多いのです。グリーンシティでは、すべての住戸のすべての部屋に住宅用火災警報器を設置しました。よって火災が発生すれば、火災警報器は鳴動します。しかし、そこから消火活動に至る動作や消火方法はわかっているのでしょうか。消火器は共用廊下に設置されているが、各住戸内に消火器を置いていないのが大半です。このような現状で、火災が発生した瞬間に「廊下にある消火器を取りに行こう」と理解をして動けるでしょうか？心のどこかに「誰かが助けてくれる」「誰かが消してくれる」「誰かが消防に通報してくれる」「誰かが避難を伝えに来てくれる」「誰かが・・・」と多くの人が、自分の命や自分の大切な人の命を、他人に丸投げした上にあぐらをかいているようです。「いやいやそんなことはない」と思うあなたは「火災の恐ろしさ」を知っていますか？

そんなあなたにお尋ねします。「**消火器での消火の限界は？**」答えは「**天井に燃え移ったら逃げる**」です。ご存じの方もいたのでは？



では、大地震で物が散乱したところに火がついた場合も同じ答えと考えて良いのでしょうか？

あの日、あの瞬間を思い出してください。そうです。答えは、阪神・淡路大震災の教訓の中にあるのです。

**【教訓】** 阪神・淡路大震災の火災で亡くなった方のほとんどは建物の倒壊・家具の転倒・脱出不可で火災から逃げ出せなかったのです。実際には建物が倒壊しなければ、延焼火災の発生数は大幅に減少するといわれています。倒壊しなければ、出火しても初期消火がしやすかったのです。火は小さい内なら初期消火で簡単に消すことができます。しかし、倒壊した建物から出火すると、我々素人が消火器等を使用しての消火活動は、ほぼ不可能になります。阪神・淡路大震災の時は消火器



で消せるタイミングといわれる「初期消火」を担当するはずのその家人が家屋の倒壊で下敷きになったことで、近隣の人々が消火活動することよりも、下敷きとなった人の救出を優先せざるを得なかったという事実があるのです。また、倒壊家屋に阻まれて、エキスパートである消防隊も火災現場に近づくことが遅れて火が大きくなり延焼したのです。



「**火災警報器が鳴れば即行動する**」意識を身に付けておき、色々なパターンで想定し、臨機応変に対応可能な備えや準備をしておきましょう。

**火災警報器が鳴ったら怖いと思うグループ**は、「火災警報器が鳴ると怖くて動けない」となれば、焼け死ぬのを待つだけです。ただし、怖いと思う意識は大切です。でも、怖いから動けないことにはならないようにしましょう。本当に怖いのは「火災」ではなく、「命が亡くなること」なのです。怖いと思うのであれば、火災警報器の鳴動、怖くても消火活動。怖ければ怖いほど、大声で「火事だー、助けてー」と火事ぶれ（通報）をしましょう。ここで大切なことは、火災警報器の音、火事ぶれの声、普段と違う音や雰囲気といった、日常の中で感じる事のない違和感に「敏感であれ」ということです。

火は小さなうちに押さえ込めば、大事には至りません。でも、見て見ぬふりや聞いて聞かぬふり、私がやらなくてもといった少しの油断が「あなたの大切なものを根こそぎ奪い去る」のです。

東日本大震災時、岩手県沿岸の山田町での火災。最初は炎も見えない一筋の煙が、数時間後には**町全体が燃えてしまった**のです。これも初期消火にあたるはずの家人が消火にあたることができず大火になってしまった典型的なものです。

日頃から少しだけ「**防災アンテナ**」を張る暮らしが、必要な時といえます。怯えて暮らす必要はありませんが、ほんの少しの心構えが必要なのです。その為に日頃から意識を持つこと、そのアイテムになるのが、今回の防災訓練で貼り替えた「**玄関ドアの役割分担シール**」です。帰宅したときに、ちょっとシールに目をやることで「**構えや防火**」を意識し、出掛けるときには「**火元の確認チェック**」の意識を啓発します。



**【役割分担シールについて】** 玄関ドアの役割分担は、貼り付けられた役割だけを担えばよいものではありません。各人が災害の瞬間に、あなたができることを**お互い様の精神**で、それが「あなたの大切な人の命を守る」ことに繋がります。今回の防災式は、日常の暮らしの中で「**防災アンテナを張ろう**」です。そうすれば、あなたにとって、きっと良いことがあるはずですよ。